

全相 美人OL女性器丸見え動画事件 1本3000円のみだらな商魂

全裸おみこし 動画
おっぱい! いっぱい! ワッショイ!

全国のママを敵に回した大阪大院卒女優 炎上バレリーナヌード 動画

薬に頼らず 眠る 知恵 夏の京都 水辺の旅

女優の「おっぱい露出」シーン 48連発 尻ざんまい

おしりフェチ必見!

呂布カルマが見つけたHカップ

広末 キャンドル 泥仕合 大図解

週刊ポスター 特別付録 ねこ背矯正 マント

炎暑をブツ飛ばす スーパープレミアム合併号

博多で大流行 よかよかダンス動画

2023年7月10日(月)発行(発行所:東京)毎月発行日(月)発行部数50万部22号誌専攻3602年創刊44年9月1日第35増刊号

2023 Jul. 7.21/28 特別価格550円

岸田の非情な改造人事「茂木、河野、高市、全員更迭」

大谷翔平「衝撃の肉体解剖図」初公開

マイカード返納 1000人が選んだ国民的ベストマザー! 激増中 5分でできる 完全マニュアル

独立宣言 ベストセラピー師人 伊藤比呂美「父は大物ヤクザ」

2030年、日経平均は8万円に到達する

7年ほったらかして 株プロが 2.5倍になる株 教えます

1万円台で買える夢のNTT株 / 配当4300万の森山銘柄

株の相続税をとん安くする裏ワザ

思わず声が出るSEX 性交寿命をもう一度 30年延ばす してみませんか?

血圧は「女性のシャワー中」に下げ、射精後はトイレへ直行

美女医が新開発「腰ひざに優しい」新体位「壁際の魔術師」

相手がいなくても大丈夫、68歳出会の達人「秘テク」

あの人気グラドルがDXラブグッズで「超気持ちいい」



日経新聞に載った「2030年、日経平均8万円台へ」の衝撃レポート!

株を「ほったらかし」にして 資産を2.5倍に増やす



3日に日経平均株価は大幅反発した

年初の日経平均株価が2万5000円台だったことを考えると驚異的なハイペースの高騰だが、株価は一体、どこまで上がるのか——長期的な視野を持つプロたちは将来的に「現在の2・5倍近くまで上がる」と読む。では、その未来に向かって我々は何をすべきか。

日本株は、まだ安すぎる!

〈日経平均8万円、外国人は納得〉シンガポール助言会社

6月28日、日本経済新聞(電子版)にこんな見出しが躍った。在シンガポールの投資顧問会社で社長を務める藤原徹一氏が同紙のインタビューに答え、日経平均株価は2030年をターゲットにした場合、8万円台まで上昇しても不思議ではないと言及したのだ。

今年3月から日経平均は上昇を続け、5月中旬に3万円台に突入。7月3日には終値が3万3753円とバブル期の90年3月以来の高値となった。もし、藤原氏が指摘するように、バブル時に記

録した史上最高値の3万8915円の2倍を超える「日経平均8万円」が実現するのであれば、現在の株価の実に2・5倍にふくれ上がる計算だ。

7年後、本当にそんな未来が訪れるのか——にわかには信じがたいが、少なからぬ投資のプロたちがこの意見に賛同しているという。

グローバルリンクアドバイザーズ代表の戸松博氏が語る。

「現在の日経平均の上昇幅を考えると、節目の3万5000円を超えれば、史上最高値の更新が視野に入る。そうなれば年内に4万円を超えても不思議ではない。もっと長期

的には、かつてない上昇があるかもしれない——専門家が強気の見方を示すのには理由がある。鍵を握るのは日本企業のPBR(株純資産倍率)の改善である。

PBRは、時価総額を純資産で割ることで算出される。株価が割高か割安かを判断する指標だ。その数値が低いほど、株価は割安と評価される。

今年3月には東証が「PBR1倍割れ」の企業に対し、経営陣による市場価値を引き上げる努力が不十分だとして異例の「改善要請」を出した。

現在、各国のPBRは、米国のS&P500種株価指数で4倍超、欧州は2倍前後が多い。対して日経平均構成銘柄は1・3倍台にとどまる。前述した藤原氏の見解を大まかにまとめれば、仮に30年までに日本株のROE(※)が12・13%まで成長し純資産が増えたとすれば、PBRが平均2倍程

度まで上昇すれば、日経平均は8万円台に達する計算になるといえるのだ。

前出・戸松氏が言う。

「東証の改善要請を受け、増配や自社株買いなどの株主還元に踏み切る企業が相次いでいます。現在の株価上昇は、ウォーレン・バフェット氏をはじめ、日本株の投資環境が好転していることに目をつけた海外投資家の買いによる影響が大きい」

そして、世界の投資家による日本株買いの動きは、「まだまだこれから続く」と戸松氏は言う。「日本は世界の先進国で唯一、金融緩和を続けており、日銀の植田和男総

裁はその路線を継続する姿勢です。当面の間は円安が続くと考えられ、割

「1・41倍理論」を打ち破る

マーケットアナリストの平野憲一氏(ケイ・アセット代表)も、将来の「日経平均大幅上昇」の可能性に賛同する一人だ。

「ひとまず、24年末の日経平均は5万3000円程度になると予想しています」

そう語る平野氏は、「名目GDPと市場の時価総額」の関係に着目してこう話す。

「兜町には、昭和・平成

安な日本株に欧米市場からマネーが流れ込む状況も続くと考えられます」

バブル崩壊以降、語り継がれてきた「最上位市場の時価総額は名目GDPの1・41倍を超えられない」という言説があります。史上最高値をつけた89年の名目GDPは430兆円で、同年末の東証1部上場銘柄をすべて合わせた時価総額は60兆6兆円だったことに由来するものです。翻って現在の日本に目を向けると、

プロが教える長く持ちたい銘柄(24)
来年開始の新NISA使い倒そう
憧れのNTT株を1万円で購入
配当4300万円の森山銘柄って何?
7年後を見据えてやるなら今!!

※自己資本利益率。自己資本に対して企業がどれだけ利益を上げたかを示す数値。

『週刊ポスト』次号(8月4日号)は7月21日(金)発売です

一部地域で発売日
が異なります

IMF(国際通貨基金)が推計した23年の名目GDPと東証プライム上場銘柄の時価総額の比率は奇しくもバブル時と同じ1・41倍なのです。

仮に「1・41倍理論」の通りなら今がピークということになりませんが、私はそうは思いません。厳しい最上位市場の上場基準を満たす企業の数は

大きく増えており、バブル期の約1・5倍になっている。生産性を上げて競争力を備えた各社が市場に正當に評価されるようになれば、バブル以降に定着した「常識」を覆し、日本市場全体の時価総額は、まだ膨らむ可能性がある」とはいえ、当然課題もある。マーケットバンク

代表の岡山憲史氏が言う。「バブル崩壊後の失われた30年で、米ダウ平均は約14倍に成長しました。日本が米国のように成長するには、政府による「積極財政」が不可欠。企業や若者に大胆な資金援助を行ない、イノベーションを生み出せる環境を整えるなどの政策を日本再生の柱にすべきでしょう」

また、24年には「新NIS A(少額投資非課税制度)」(PART④で詳述)も始まる。「今後、新NIS Aをきっかけに個人投資家が増えると考えられ、それも株価上昇の後押しになるでしょう」(戸松氏) 株価2・5倍の日経平均8万円へ——日本株の常識が変わりつつある。



物流業界に「2024年問題」が迫る中、注目の銘柄は…

PART② DX、物流、医薬ベンチャーほか プロが教える長く保有したい銘柄

自動車の「ワイパーブレード」を製造する会社もいらしい?!

この上昇局面で「ほったらかしで資産2・5倍」を期待できる個別株を投資のプロが厳選、次々の表に示した。

前出の戸松氏が言う。「長期保有を前提に考えると、先端技術や画期的なビジネスモデルなどによって各分野で独自の強みを持ち、圧倒的なシェアを誇る企業は今後の成長が期待できます」

そこで戸松氏はまず、「DX(デジタル・トランスフォーメーション)関連銘柄を推す。「経営コンサルティングやデジタルコンサルティングなどを行なうINT

LOOPは、DX化の恩恵で急成長し、前期まで10期連続増収。今期も大幅な増収増益を見込んでいます。ビッグデータを活用してあらゆる情報を分析して、顧客のニーズや本音などを探るデータ分析プラットフォームなどを提供するプラスアル

ファ・コンサルティングは、収益性と安定性、そして成長性を兼ね備えた注目企業といえます」 医療従事者向けに医療情報を提供するサイトを運営する医薬DX企業のケアネットも、「株価上昇の余地は大きい」と戸松氏が見る。

ほったらかしにして上昇を期待できる銘柄24

企業名(市場 証券コード)	株価	注目ポイント
新日本空調(P・1952)	2347円	三井系の空調設備工事会社で、原子力空調設備など独自の技術に強みがある。都市の再開発需要に期待
ケアネット(G・2150)	933円	医療情報専門サイトを運営し、23年3月末時点で日本の全医師の約60%、21万1736人の医者が登録
ビューティガレージ(P・3180)	4500円	最大手のプロ向け美容商材通販サイトを運営し、店舗設計や開業支援、集客支援などにも事業拡大
宮地エンジニアリンググループ(P・3431)	4085円	橋梁・鉄骨製造大手で高速道路や吊り橋などの大規模更新工事において技術力に強み
プラスアルファコンサルティング(G・4071)	3295円	世の中のあらゆる情報を見える化する。を掲げ、ビッグデータを可視化するデータ分析プラットフォームを提供
三菱ガス化学(P・4182)	2121.5円	メタノールの生産能力は世界トップクラス。今期はタイで半導体関連樹脂の生産を2倍に拡大する見込み
ビジョナル(G・4194)	7970円	ハイクラス人材に特化した会員制転職サイト「ビズリーチ」を運営し、ダイレクトリクルーティング市場のパイオニア
エクサウィザーズ(G・4259)	551円	AIを利用した自社サービスを提供するAIベンチャー。事業を通じて蓄積された知見やデータが強み
→ キャンバス(G・4575)	1236円	すい臓がんの治療薬開発を行なう創薬ベンチャー。米国で進める治療薬の第3相臨床試験の開始準備中
→ ステムリム(G・4599)	913円	大阪大学発のバイオ医薬ベンチャー。自己修復力を高める「再生誘導医薬品」を開発している
→ メディシノバ・インク(S・4875)	338円	米国が本拠で米市場にも上場する医薬品開発ベンチャー。喘息急性発作などの治療薬開発を行なう
フコク(P・5185)	1456円	工業用ゴム製品大手で国内市場をほぼ独占する製品も。24年3月期の連結業績は営業利益94%増を見込む
前澤工業(S・6489)	839円	上下水道用機械大手で、官公庁からの受注割合が高い。高い技術力に裏打ちされたメンテナンス事業なども強み
STEMセル研究所(G・7096)	3205円	臍帯血や臍帯の保管などを行なう細胞バンク事業を展開し、再生医療や不妊治療分野で急成長
アイドマ・ホールディングス(G・7373)	2775円	中小企業の営業を支援するセールステックカンパニー。非対面型の営業代行サービスなどを行なう
明和地所(P・8869)	1020円	首都圏中心の「クリオ」マンションシリーズの販売が好調。24年3月期中の住戸のうち、期初時点で89%の契約達成
エスリード(P・8877)	2613円	近畿圏でのマンション開発・販売を主力とする。リフォームや戸建てといったさらなる事業を拡大している
トーセイ(P・8923)	1782円	マンション開発事業から不動産流動化事業や不動産再生事業にシフトし、付加価値創造で収益向上をしている
グランディハウス(P・8999)	585円	北関東を拠点に土地取得から造成・分譲までを行なう建築住宅販売事業で急拡大
丸全昭和運輸(P・9068)	4030円	JFEや昭和電工、ライオンなどを顧客に持つ総合物流企業。農産物の倉庫保管や流通事業を拡大して好調
AZ-COM丸和ホールディングス(P・9090)	2013円	小売業に特化した物流事業者。アマゾンジャパンを最大の顧客として、事業規模を拡大している
ブティックス(G・9272)	3010円	介護業界に特化した業界最大のマッチングサービスを提供。M&A仲介事業に参入し、業界一に成長
INTLOOP(G・9556)	5530円	企業のDX化に強みを持ち経営コンサルティングやデジタルコンサルティングを行ない、急成長
カプコン(P・9697)	5745円	人気IP(知的財産)を多数保有し、多面展開を行なうことで成長を続けるゲーム大手。安定収益に強み

企業名は証券コード順に並べた。市場はP(プライム)、S(スタンダード)、G(グロース)。「株価」は7月3日終値(単元株数はいずれも100株)。



早期発見で
子どもの健康を
守る新・子育て本

子どもの異変は

成長曲線

でわかる

【特典】
「発育グラフソフト」収録
わが子の成長曲線を描こう

小林正子

館書
小新

イオニアであるSTEMセル研究所は、再生医療などの新たな治療法の開発を進め、28年までに売上高3倍、営業利益6倍を

ニッチ市場の雄々を狙おう

前出の岡山氏は、収益が持続的・安定的に伸びる期待が大きい「業界」に注目する。ニッチな市場で圧倒的なシェアを誇る企業は見逃せないという。

「工業用ゴム製品大手のフコクは、自動車ワイパーブレードの国内市場でほぼ独占。業績は好調で、24年3月期も大幅な増収増益を見込む」
そして、生活に欠かせない「インフラ」関連銘柄が手堅いという。
「三井系の空調設備工事会社である新日本空調は、日本のモノづくりを支える電子デバイスや精密機器などへの設備投資や、都心の再開発などを追い風に堅調な推移が予想さ

目指している、目標達成の可能性は高いと見ています」（戸松氏）

先進医療は世界市場で躍進する可能性もある。

れます。前澤工業は官公庁向けの上下水道用機械大手で手堅い成長が見込めます

定期的な点検が必要なインフラ関連で独自の強みを持つ企業は、需要がなくならず、堅実な成長が見込めるため、ほったらかしには打ってつけないという。

戸松氏は、コロナ禍でもはやインフラと呼べるほど身近になったネット通販に強みを持つ「物流業界」にも注目する。

「AZI COM丸和ホールディングスは、イトーヨーカドーなどの物流業務の受託を通して、国内で初めて企業の物流を丸ごと請け負う総合物流企業へと進化しました。ア

マゾンジャパンをはじめ大手小売りの顧客を多数抱えています」

時間外労働の規制強化による人手不足など物流業界の「2024年問題」が懸念されているだけに、そうした課題を解決でき

得る企業の強みが高まっていくと見ているわけだ。長期保有するなら配当利回りの高さや株主優待の有無にも着目したい。

「配当利回りが高く、増配など株主還元が積極的な銘柄であり、かつ株価

が割安かを見る指標であるPBR1倍割れのものを探していきましょう。

たとえば、森トラスト系でマンション開発・販売が主力のエスリードはPBRが0.6倍台と割

安で、配当利回りは3.7%前後と高いうえに、株主優待（3000円相当のカタログギフト）ももらえる。今期（24年3月期）も大幅な増収増益を見込むなど成長も期待できま

す」（岡山氏）
ほかに、岡山氏が注

目する不動産関連の銘柄では明和地所が配当利回り約4.8%、グランデ

イハウスが5%以上などとなっており、いずれもPBRは1倍割れと「割

安な高配当銘柄」である。配当利回りやPBRなどの指標はネットなどで簡単にチェックできる。

そうした指標を考慮し、成長戦略や安定性などを加味して銘柄を選ぶことが、「ほったらかしで資産2.5倍」につながっていくはずだ。

③ 当時は1株300万円だったのが「1万円台」に PART 3 バブルの象徴「NTT株」が「25分割」 令和のバブルでも買うべきなのか

株式市場が活況を呈するなか、かつて国民を熱狂させた「あの株」が再び脚光を浴びている。

NTTは7月1日付で異例の株式「25分割」を実施した。これまで同社の株を購入するには最低

でも40万円超が必要だったが、この分割によって現在は1万7000円程度で手に入る。

NTT株が上場したのは今から36年前の87年2月9日。当時の日本はバブル経済の真っ只中で、

企業収益や給料は大幅な上昇が続く、一般人が株式に投資する「財テク」が盛んだった。

そんな時代に売り出されたNTT株は「バブルの象徴」と呼ばれていた。株式評論家の植木靖男氏